

あの手 この手

あの手この手のマークの間のSは、solution(解決)のSです。

第122号 2017年9月10日 大和市民活動センター 拠点やまと 発行

2017年
9月号



【市民活動にこの人あり】第18回
外国人定住者と市民とのつなぎ役
として活躍する桜井弘子さん。



第10回やまと国際アートフェスタ

「みんな、つながれ! ~世界と、未来と、友だちと~」

9月29日(金)~10月1日(日)
大和市文化創造拠点シリウスにて

記念すべき第10回となる今年は、「シリウス」の1階ギャラリーで3日間、応募全作品を展示します。

外国にルーツを持つ児童生徒の作品は、来場者の投票により1名に「インターナショナル賞」が贈られます。

是非ご来場いただき、あなたも作品の投票にご参加ください。なお、作品の応募受付は、8月30日で締め切りしました。

主催：やまと国際フレンドクラブ (IFC)

←2017年度の表紙は、第9回やまと国際アートフェスタ(2016年)入賞作品を掲載しています。第9回のテーマは「世界の子どもたちへ」です。

Atelier My Heart賞「世界の友達」
林間小学校2年 神定リリー(フィリピン)
※学校・学年は受賞時

「私はこの絵をかいた時に友だちがみんななかよく、せかいが平和であるようにと思い、かきました。しょうもなかった時は、本当にうれしかったです。ありがとうございました。」

市民交流センター(仮称)に設置される市民活動ブース「部室」利用説明会を2回開催!

来年4月に開設の市民交流センター(仮称)に市民活動ブース(部室)が設置されますが、その利用希望団体に対する説明会を当センターで開催します。約4.5畳~10.5畳の計44室の部室が、月額3000~6000円程度(3カ月分前納)で利用できます。説明会参加希望者は、当センターまでお申し込みください(☎260-2586)。

- ・第1回/9月22日(金) 14:00~15:30
- ・第2回/9月23日(土・祝) 10:00~11:30

詳しい募集要項は、すでに当センターほかで配布中。大和市ホームページからもダウンロードできます。

第77回共育セミナー/大和市居場所見学ツアー第2弾「あかり食堂」見学ツアー参加者募集

6月1日に新たに南林間にオープンした「マチツナガル あかり食堂」を訪問します。「ゆらり大和」施設長の野間康彰さんの呼びかけで、1年前に「大和にコミュニティカフェを作る会」を結成し準備を進め完成したみんなの居場所です。同じ建物に訪問看護・介護ステーションも併設されています。

日時：10月28日(土) 14:00~16:00
集合：小田急江ノ島線 南林間駅西口改札に13:50
会費：500円(ワンドリンク付) ※貸切で実施
申込：当センターまで(☎260-2586)
備考：終了後、希望者は交流会(飲食実費)



夏休み中高生のボランティア体験「このゆびとまれっ！」 みんな 精一杯 取り組みました！



● 市民活動センターから／櫻井貞代

やまと国際フレンドクラブ (IFC) の「学べ〜る」

参加した高校生は、外国にルーツを持つ子どもたちに真摯に向い合い夏休みの宿題・日頃の学習のわからないところを丁寧に教えていました。小学生に漢字の書き取り・中学生の作文の相談など子どものそれぞれの要望に答えていました。また、休憩時間は子どもたちがリラックスできるように、紙ヒコーキを作ったりゲームを楽しんだり、微笑ましい雰囲気の中進んでいきました。



ゆらり大和 (ゆらり倶楽部 大和)

デイサービスに参加した高校生は、自己紹介をしながらも、お年寄りから次々に質問があり、早速に交流が生まれました。スタッフの指導で行ったジェスチャーゲームも笑い声が絶え間なくつづきました。一緒におやつを頂きながらの会話は「高校生が来てくれただけでうれしいよ」「うちの孫もそうだ」などと、とどまることなく盛り上がりました。高校生が来てくれて楽しいなどの感謝の言葉がそこここから聞こえてきて嬉しかったです。参加した高校生全員が「また行きたい」と口をそろえました。



● 受け入れ団体から

また来てくださいね！

引地川水とみどりの会事務局長 五味尚生

7月29日(土)・8月26日(土)の2日間で、延べ18名の中高生みなさんを受け入れ、今年も引地川の清掃活動を体験していただきました。初めて体験される生徒さんも多く、最初は恐る恐る川に入ったのが活動でしたが、終了時にはきれいな川になって、みんな笑顔。2日間とも30度を超える暑い日でしたが、一生懸命手伝ってくれました。本当に有難うございました。また来てくださいね！

高校生との出会い／デイサービスハッピー鶴間 牧野 康子

毎年お世話になっている「このゆびとまれっ！」で高校生ボランティアとの素敵な出会いをいつも頂いております。しかし、高校生とお年寄りということで年齢差もあり、認知症の方もいるのでどう接して頂けばよいのか？正直悩みました。

しかし、実際に来て頂いて本当に驚きました。何の心配もなく、どこにでもいらっしゃるおじいさんおばあさんとお孫さんのようにとても自然に接してくださいました。ボランティアの内容は、詩吟を披露してくれたり、お年寄りと長時間の将棋対戦、傾聴や工作など、色々なことに携わっていただきました。



お年寄りにとって異世代との交流は心にも体にもとても良い刺激で素晴らしいリハビリになります。それと同時に高校生にとっても、人生の先輩から学ぶことはたくさんあったと思います。

「介護」と言葉で聞くと、オムツを替えたり食事や身体の介助で重々しい印象がありますが、お話を聞いたり話したり、一緒に一つの事に取り組むことなどが立派な介護になります。

一緒に楽しむことを学んで頂けたかと思えます。私たち職員も利用者様もそして高校生も、それぞれの出会いを大切にお互い学び、楽しみ、そして次の自分の活動や生活に役立てて頂けたら幸いです。ありがとうございました。

● 参加者から

0歳児からのコンサート／桐光学園高校2年 酒井涼那

今回私は、コンサートの会場のセッティング・受付をやりました。子ども相手のボランティアは初めてで、少し戸惑いましたが、次第に自分から子どもの行動に目が行きコミュニケーションがとれて、とても楽しかったです。普段は聞くことはない「音楽物語」を聞くことが出来、良い経験になりました。子どもが楽しめる「手遊び歌」で緊張をほぐし、「さんぽ」や「アンパンマンのマーチ」を一緒に歌ったことで、一体感を得ることができました。子どもも親も楽しめるプログラムでした。



【カッコフェスタ'17】を現センターで11月5日(日)に開催。参加団体募集開始！

現センターの場所では最後となる「市民活動団体交流まつり【カッコフェスタ'17】」を11月5日(日)に開催します。会議室を使ってのワークショップやパフォーマンスタイム、

屋外テントやフリースペースを使っての展示ブースを設けます。枠に限りがありますので、参加希望の方は、お早めに当センターまでお申し込みください (☎260-2586)。

NPO法人 かながわ難民定住援助協会 会長 桜井弘子さん

大和市には、2017年1月現在で6008人（約70カ国）の外国人市民がいる。39人に1人の割合で、比率は他の自治体より多く、しかも年々増えている。これは、1980年から1998年まで、南林間にインドシナ難民定住促進センターが設置されたことが大きい。定住前に日本語や日本の社会制度・生活習慣を学び、就職斡旋を受け、地域に自立定住するための機関だ。しかし、閉所後も定住者が増えているのは、大和市には外国人を支援する環境が整っているからではないだろうか？そこで大きな役割を果たしてきたのが、かながわ難民定住援助協会と会長の桜井弘子さんだ。

1980年頃、テレビでインドシナ難民のことを知り、心を動かされた。実は桜井さんは上海のフランス租界生まれ。4歳のとき、引揚者として日本に無事戻ってきた経験があり、今でも当時の記憶は鮮明にある。また、外資系の会社に勤め、海外スタッフは週に2、3日、外部の日本語講師による指導を受けているのを見ていたため、これだと思った。ライフワークにしようと決めた。

そして、国際ボランティアセンター(JVC)が主催した大和市内での日本語教室に参加。ここから桜井さんのボランティア人生が始まった。当時は家庭訪問で教えることが主流だったが、教わる側は受け身になりやすく、家庭環境にも左右され落ちていて勉強ができない。そこでJVCに提言。教室活動としての大和日本語教室を始めることができた。事業は3年間で終了したが、その後も有志が担い、今日までなんと32年間、途切れずに続いている。

1986年には、寄付金をもとに定住者のアフターケア機関として神奈川県インドシナ難民定住援助協会（2003年に現在の名称に変更）が設立された。3年目に事務局に入った桜井さん。難民定住者の日本語を学べる機会を増やすため、そして、日本語ボランティア増員の必要性を感じていたため、新しい事業として始めたのが、日本語ボランティア養成講座だ。

2009年からは、大和市との協働事業として「つま読み書きの部屋」も始めた。教材は生活にすぐに使えるようにすべて手作り。協働事業のおかげで市職員の理解も深まった。こうした積み重ねが、大和市が定住者にとっての居心地の良さに貢献しているのは間違いない。「定住者と市民との間で大きな問題が起きなかったのは、地域の日本語教室のおかげ」と言われたこともある。それだけではない。定住者は税金を納め、日本社会の一員となっている。いまやグローバル化の進展で、日本でも多国籍の人がともに暮らしていくことは避けて通れない。そろそろ引退したいようだが、協会への期待は、増えることはあっても減ることはなさそうだ。



▲2015年「ベトナム建国記念式典」にて(右から2番目が桜井さん)

インターンシップを終えて

8月21日から25日までの5日間、市民活動課と市民活動センターとによるインターンシップが、相模女子大学の学生3名の参加で行われました。市民活動の現場で障がい児の遊び相手、WEショップの活動など体験。その感想をご紹介します。



「拠点やまと会議」参加時の様子

左から、新里采音さん(管理栄養学科1年)、今宮優さん(日本語日本文学学科3年)、横山奈瑠実さん(英語文化コミュニケーション学科3年)

◆**新里采音**／インターンシップのなかで特に印象に残った体験は、障がいをもった子どもたちと触れ合う活動でした。楽器を用いて子どもたちが音に触れる様子を見て、ひとり一人の個性を感じました。そしてボランティアを通していろんな方と出会えるきっかけを持つことは自分にとってプラスで、自分の知らない世界を見ることに繋がると思いました。また「自分が必要とされる場に居ることの実感は続けることのモチベーションになる」という言葉が心に残りました。その言葉を思い出しながら、今後行動していきたいです。

◆**今宮優**／様々なボランティアのお手伝いやお話しを聞かせていただき、どれも大変刺激になり、驚くことが多くありました。特にワン・ピースでの体験が印象に残りました。電源の入っているロデオマシーンの上に乗っている女の子に、私たちは咄嗟に「危ない」と注意してしまいました。しかし滝本さんは「あと10秒ね」と言い、その子の補助に手を差し出し見守ったのです。安易に注意するのではなく、しかし見過ごすのではなく、相手を尊重しつつ、しっかりとやめさせるその手腕に驚嘆しました。そこに至るまでに積み重ねた経験の多さもうかがえました。私も滝本さんのような行動を心掛けていきたいです。

◆**横山奈瑠実**／今回一番印象に残ったのはサポートハウス・ワンピースでの体験です。直接障がい児と接するのは初めてで、正直不安な気持ちでいっぱいでしたが、接してみると普通の子どもとあまり変わりなく、無邪気で可愛い印象でした。しかし重度の障がいを持っている子だと普通に座っていることもできなかったりするので、四六時中面倒を見ているお母さんは非常に負担が大きいなと思いました。なかなか行動に移して支援できる人はいない中で、団体を立ち上げ、障がい児とお母さんを支援している滝本さんは本当に素晴らしい方だと思いました。

イーパーツから3団体にPC寄贈が決定！

第14回かながわイーパーツリユースPC寄贈プログラムで、当センターからは、日本ペルー共生協会、がくいきの会、ドラマティックカンパニーYamato50の3団体にPC寄贈が決定しました。

拠点やまとの協働事業正式決定！

平成30年度から3年間の大和市民活動センター管理運営事業は、協働事業提案が採用となり、拠点やまとが新センターの運営を担うことが正式に決定しました。

